

### 第3回イノベーション戦略調整会議 議事録

1. 日時 平成30年6月5日(火) 7:35～7:50

2. 場所 総理官邸2階小ホール

#### 3. 出席者

議長	菅 義偉	内閣官房長官
副議長	松山 政司	内閣府特命担当大臣(科学技術政策、知的財産戦略、宇宙政策)兼 情報通信技術(ＩＴ)政策担当大臣
構成員	茂木 敏充	経済再生担当大臣 兼 健康・医療戦略担当大臣 兼 内閣府特命担当大臣(経済財政政策)
	(村井 英樹	経済再生担当大臣政務官 代理出席)
同	梶山 弘志	内閣府特命担当大臣(規制改革)
同	福井 照	内閣府特命担当大臣(海洋政策)
同	野田 聖子	総務大臣
	(坂井 学	総務副大臣 代理出席)
同	河野 太郎	外務大臣
	(岡本 三成	外務大臣政務官 代理出席)
同	麻生 太郎	財務大臣
	(木原 稔	財務副大臣 代理出席)
同	林 芳正	文部科学大臣
同	加藤 勝信	厚生労働大臣
	(高木 美智代	厚生労働副大臣 代理出席)
同	齋藤 健	農林水産大臣
同	世耕 弘成	経済産業大臣
同	中川 雅治	環境大臣
同	小野寺五典	防衛大臣
同	野上浩太郎	内閣官房副長官
同	杉田 和博	内閣官房副長官
同	西村 康稔	内閣官房副長官
同	和泉 洋人	内閣総理大臣補佐官

#### 4. 議題

(1) 統合イノベーション戦略(素案)について

(2) 「科学技術・イノベーション政策強化推進のための有識者会議」について

#### 5. 配布資料

資料1 統合イノベーション戦略(素案)(概要)

資料2 統合イノベーション戦略推進会議の設置について

資料3 統合イノベーション戦略(素案)

資料4 「科学技術・イノベーション政策強化推進のための有識者会議」の開催について(案)

## 6．議事

### 【松山科学技術政策担当大臣】

定刻となりましたので、第3回イノベーション戦略調整会議を開会いたします。

本日の会議では、「統合イノベーション戦略」につきまして、前回の会議以降、関係省庁間で進めてきた調整を踏まえた素案を御報告させていただきます。

また、新たに「科学技術・イノベーション政策強化推進のための有識者会議」を設置することについて、御審議を頂きます。

それでは議事に入ります。

一つ目の議題は、「統合イノベーション戦略」（案素）についてです。

和泉総理大臣補佐官から説明をお願いします。

### 【和泉内閣総理大臣補佐官】

まず、お手元の「資料1 統合イノベーション戦略」（素案）（概要）に沿って説明します。

資料1の1枚目の上半分では、「統合イノベーション戦略」の背景について説明しております。

世界で破壊的イノベーションが進展し、ゲームの構造が一変しており、過去の延長線上の政策では世界に勝てないという現状認識の下、我が国の強みを生かしつつ、弱みを克服して、「全体最適な経済社会構造」を柔軟かつ自律的に見出す社会を創造することを目的としております。

基本的な考え方としては、「グローバル目標」、「論理的道筋」、「時間軸」を示し、「一気通貫」で取組を実行するために政策を統合し、もって、知・制度・財政の基盤3本柱を改革・強化することにより、「世界で最もイノベーションに適した国」を実現して、各国が直面する課題の解決モデルを世界に先駆けて提示していくこととしております。

資料の下半分では、「統合イノベーション戦略」に盛り込んだ主要施策について説明しております。

まず、イノベーションの基礎となるデータ連携基盤構築等の取組を「知の源泉」として位置付けています。具体的には、世界に先駆けた包括的な官民データ連携基盤を整備すると共に、研究や科学技術に関するデータを収集・管理・利活用できる基盤を構築します。

イノベーションの拠点となる「大学の改革」と「戦略的な研究開発」を「知の創造」と位置付けています。大学改革については、特に「人事給与マネジメント改革」、「産学連携」、「若手が研究に打ち込める環境確保」が議論となっておりますが、公正な年俸制の完全導入や、民間資金獲得に連動したインセンティブの付与、若手への研究費の重点配分等の改革を盛り込んでいます。

次に、「創業」と「政府事業・制度等のイノベーション化」を「知の社会実装」として位置付けています。公共事業や自治体を含めた公共調達、社会保障関連事業など、政府事業の全体において新技術の積極的な活用を進めるなど、政府事業そのものをイノベーション化することが重要です。これを恒常的に支える仕組みとして、C S T Iの情報集約・分析機能の強化を盛り込んでいます。

「知の国際展開」としては、各国のSDGs達成の模範となるロードマップを策定し、世界へ発信します。

さらに、強化すべき個別分野として、「AI」、「バイオテクノロジー」、「環境エネルギー

ー」などを盛り込んでいます。

このうち、「ＡＩ」については、全レベルでの桁違いの規模での人材育成を盛り込んでいますが、そのためには現状の育成規模を把握した上で、目標を設定すべきです。現状の政策を見直した上で、効果の見込める政策への集中・強化が必要です。

「環境エネルギー」については、パリ協定「２ 目標」の達成に向け、エネルギーマネジメントシステム、創エネ・蓄エネ、水素について目標と道筋を構築すべきことを盛り込んでいます。

「農業」についてはスマート農業技術・システムの開発・展開について、ターゲットを明確化し、国際展開を見据えて進めることを盛り込んでおります。

次に「資料２ 統合イノベーション戦略推進会議の設置について」を御覧ください。

戦略の実施体制については、イノベーション関連の司令塔機能強化を図る観点から、特に関連が深い司令塔会議について、官房長官を中心とした横断的かつ実質的な調整・推進機能を構築するため、本年夏を目途に、本調整会議を格上げして「統合イノベーション戦略推進会議」を設置することとしております。

その旨は、「資料３ 統合イノベーション戦略」（素案）にも盛り込んでおります。

「統合イノベーション戦略」は今月中旬にＣＳＴＩ本会議で答申案を決定し、閣議決定する予定でございます。

以上でございます。

#### 【松山科学技術政策担当大臣】

それでは、本議題につきまして、関係大臣から発言いただきたいと思います。時間も限られておりますので、各位１分程度でお願いいたします。

まず、林文部科学大臣、お願いいたします。

#### 【林文部科学大臣】

文部科学省といたしましては、Ｓｏｃｉｅｔｙ ５．０の実現やＳＤＧｓの達成に向けまして、この「統合イノベーション戦略」に掲げられた大学・国立研究開発法人のイノベーション拠点化、それからイノベーションを支える人材力の強化、ベンチャー支援の強化、ＡＩ技術、環境エネルギー、安全・安心などの我が国として強化すべき分野の推進、こういったことを通じましてイノベーションの推進に取り組んでまいります。

とりわけ、持続的イノベーションの創出に欠かせない若手研究者の支援等を強化する観点から、国立大学の人事給与マネジメント改革の促進等による人材流動性の向上及び若手の活躍機会創出、科研費等の若手研究者への重点化や新興・融合領域の開拓に資する挑戦的な研究の促進等による研究生産性の向上等を着実にやっていく所存でございます。

以上です。

#### 【松山科学技術政策担当大臣】

次に、世耕経済産業大臣、お願いします。

#### 【世耕経済産業大臣】

経産省としては、Ｓｏｃｉｅｔｙ ５．０やＣｏｎｎｅｃｔｅｄ Ｉｎｄｕｓｔｒｉｅｓの実現に向けて、特に人工知能に係る人材育成、研究開発型ベンチャーエコシステムの構築が重要

と認識しております。

A I人材については、事業と研究の双方における実践的な取組を通じたトップ人材の育成、社会人を対象とI Tの学び直し、I Tリテラシーや理数教育の強化について支援の充実を図っていききたいと思います。

研究開発型ベンチャーのエコシステムについては、ベンチャー企業が持つ優れた研究開発シーズを大企業やベンチャーキャピタル等のコミットを得て社会実装につなげていくことが重要であり、N E D Oを通じて支援の充実を図ってまいります。

「統合イノベーション戦略」も踏まえ、経済産業省としても、イノベーション創出に向けて取り組んでまいります。

【松山科学技術政策担当大臣】

次に、小野寺防衛大臣、お願いします。

【小野寺防衛大臣】

安全保障環境が一層厳しさを増している中、本統合戦略の主要分野として「安全・安心」が位置付けられることは、大変大きな意義があると考えております。

我が国を取り巻く様々な脅威に対し、産学官の優れた科学技術力を結集し、安全・安心の確保のため幅広く活用する施策が明示されることは、科学技術政策と安全保障政策を結ぶ極めて重要な一歩と受け止めております。

防衛省は、国民の命と平和な暮らしを守るため、安全保障技術研究推進制度の充実やJ A X A、J A M S T E Cなど国立研究開発法人との研究協力を拡充することをはじめ、関係府省庁・産学官との連携を一層強化し、本戦略の下での取組を具体的かつ強力に推進してまいります。

【松山科学技術政策担当大臣】

次に、村井内閣府大臣政務官、お願いします。

【村井経済財政担当大臣政務官】

経済財政諮問会議、未来投資会議及び健康・医療戦略推進本部では、C S T Iと共に、官民の研究開発投資拡大と、S o c i e t y 5 . 0の実現に向けて、各省庁の施策の有機的・一体的な連携に向けて協力してまいりました。

生産性向上に効果の高い研究開発を迅速かつ機動的に展開するには、政府が一体となって政策を進めることが重要と考えておりまして、検討の結果は、今年の夏に策定されます骨太の方針や未来投資戦略においても適切に反映させてまいります。

【松山科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

最後に私からも一言申し上げます。

各大臣におかれましては、「統合イノベーション戦略」策定に向けて御尽力を賜りましてありがとうございます。

国内外の急速な情勢変化を踏まえて、「知の源泉」、「知の創造」、また「知の社会実装」、さらには「知の国際展開」を柱として掲げまして、さらに「A I技術」等の個別主要分野を設

定し、関係省庁や本部等の御協力を得て、野心的な目標設定と具体的施策を盛り込んだ戦略として取りまとめることができました。

本日御議論いただきました素案につきましては、今後、与党調整を経て、今月中旬のＣＳＴＩ本会議答申及び閣議決定に向けて所要の手続きを進めてまいります。

今後は、関係本部・省庁が連携・協力し、一丸となって統合戦略の確実な推進に取り組む必要がございます。各大臣におかれましては、引き続き御協力をお願いいたします。

次に、二つ目の議題でございます「科学技術・イノベーション政策強化推進のための有識者会議」についてです。

資料４でございますが、「統合イノベーション戦略」の迅速な推進を図るため、この「イノベーション戦略調整会議」の下に、課題ごとに専門の事項を調査する有識者会議を、新たに設置するものでございます。

本件について、原案のとおり決定してよろしゅうございますでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【松山科学技術政策担当大臣】

ありがとうございます。

それでは、原案どおり決定いたします。

最後に、官房長官から御挨拶を頂きたいと存じますが、ここからプレスを入れさせていただきます。

（プレス 入室）

【松山科学技術政策担当大臣】

それでは、官房長官、お願いいたします。

【菅官房長官】

本日は、「統合イノベーション戦略」の素案について議論をいたしました。

松山大臣は、今後与党とも議論を深め、スピード感をもって本戦略を取りまとめていただきたいと思います。

また、本戦略の政策を確実に実行すると共に、更なる強化を図る必要があります。このため、本調整会議を格上げをし、「統合イノベーション戦略推進会議」を閣議決定で設置することといたします。

これによって、政府一丸となってイノベーション戦略に取り組む体制が構築できます。

各大臣におかれては、引き続きリーダーシップを発揮し、推進会議の下で本戦略に掲げられた施策に精力的に取り組んでいただきますよう、お願い申し上げます。

【松山科学技術政策担当大臣】

ありがとうございました。

では、プレスの方はここで退室をお願いいたします。

（プレス 退室）

【松山科学技術政策担当大臣】

本日の議事は以上でございます。

本日の資料及び議事録は公表させていただきます。

以上で終了いたします。ありがとうございました。